

大人も子どもも、楽しく心豊かに …皆で祝ったクリスマス…



キッズイングリッシュコンテスト

堂々と英語でスピーチ 学習の成果しっかりと

東陽町語学では11月14日に「第1回東京YMCA キッズ・イングリッシュ・コンテスト」を実施した。日頃の学習の成果を大勢の前で発表する場を提供したい、英語で想いを伝える面白さを体験して欲しいとの思いを込めて企画したイベントで、年長児から小学4年生までの、東陽町語学教育センターに在籍する16人の子どもたちが出場した。



コンテストは3部門に分かれて行い、小学生クラス受講生による絵本の朗読、婦国生クラス受講生によるスピーチ、「その他」部門受講生による歌やチャン

ツ(英語を一定のリズムに乗せて歌う)などの発表があり、盛りだくさんの内容で審査員や観客を楽しませてもらった。

審査員はスタッフの山根一毅氏(東陽町語学)、小学生クラス・婦国生クラス・コーディネーターのほか、特別審査員として聖学院大学の藤原真知子氏(元東京YMCA児童英語教育部署イレクター)の4人が担当

審査員を目的にして緊張した面持ちを見せていた子どもたちだが、皆、日頃の学習や練習の成果を最大限に発揮することができた。普段は恥ずかしがり屋な受講生が堂々と大きな声でスピーチし、誇らしげに入賞証書を受け取る姿が特に印象的であった。

(東陽町語学教育センター 秋山真輝)



西東京ファミリーが集う

多摩ワイズメンスクラブのメンバーに約40人、祝会には60人、トーンチャイムや、音訳ボもたち・保護者・リーダーランディアサークル「シジユウカフ」の絵本の読み聞かせなどを楽しみ、最喜ぶを分かち合えたファミリークリスマス。とても意味のあることだったと思う。

(西東京コミュニティセンター 井口 真)

国際協力軸に世代間交流

今年の国際協力部クリスマスは、12月4日に東陽町センター・ウエルビーでクリスマスシーズンのトップを切って行われた。

このプログラムは、東京YMCAのパートナーシップ・プログラムを始めとした国際協力プログラムにかかわる皆さんや、応援・協力して頂いている方々がともに顔を合わせてクリスマスを祝うと共に、それぞれの活動の報告と交流の機会として2007年から始まり、今年で4回目となる。会の運営に当たっては、



皆で乾杯! 右から2番目が高橋委員長

「0422市民クリスマス」が、12月11日、カトリック吉祥寺教会で行われ、このプログラムは、市域の教会、YMCAとYWCAが力を合わせて行われ、誰もが一緒に祝えるクリスマスは、400人の参加者が会場に入りきらず、入り口で立ち見状態となる盛況ぶりであった。

救い主の誕生を共に祝う時間を与えられ、もう一度頑張りたいと、神様から背中を押されているように感じた会であった。

(西東京コミュニティセンター 井口 真)

市民クリスマスに400人

「0422市民クリスマス」が、12月11日、カトリック吉祥寺教会で行われ、このプログラムは、市域の教会、YMCAとYWCAが力を合わせて行われ、誰もが一緒に祝えるクリスマスは、400人の参加者が会場に入りきらず、入り口で立ち見状態となる盛況ぶりであった。

救い主の誕生を共に祝う時間を与えられ、もう一度頑張りたいと、神様から背中を押されているように感じた会であった。

(西東京コミュニティセンター 井口 真)

親子のハーモニーコンサート

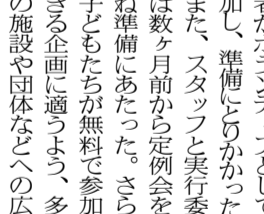
12月11日、玉川聖学院を開催した。『子どもたち(世田谷区)で、チャイルドに本格的なオペラを聴かせドケアセンター主催「親子のハーモニーコンサート」とスタッフの想いから始まった。

東京1フロストパレィ

2011年はキャンパスに集中している。生誕150周年にあたる。初めて教育的な意図をもってキャンパスが実施されたのは、1861年、コネチカット州のガナリースクール(The Ganerly)におけるガナリ夫妻の「ガナリーキャン

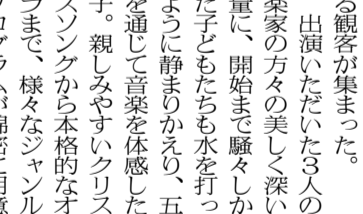


末だけ借用しておこなわれているのだが、この校舎が古めかしくも大変素晴らしい。感激のあまり校長先生に尋ねたところ、1872年に少年使節として渡米、後に津田塾大学の前身となる女子英学塾を創始した津田梅子が学んだ校舎だという



活動も熱心に行った。あるお客さまからは、「来年度も参加したいのですが、開催されますか?」と聞かれ、非常に嬉しく感じた。

ハーモニーコンサートは、皆さんの人々に喜ばれ、地域と一体となって今後も続行されていくことを願っている。(実行委員 羽生友起子 二チャイルドケアセンター保護者)



三宅島からも参加
クリスマスオープンハウス
東陽町センターでは12月23日、全館で「クリスマスオープンハウス」を開催した。天気恵まれ、この時期にしては暖かい日となった。写真、東陽町地域の年末の風物詩「クリスマスオープンハウス」は、日常から災害時まで、あらゆる場面で築いてきた人と人とのつながりを、継続してさらに強める場でもある。

TOKYO DIARY

偉大な歴史の一端に接する機会を喜んでいた矢先、1889年に津田梅子が再渡米・留学したブリンマーカレッジ(Brunn College)も補習校指導者やボランティアの近所であることを知り、すぐに同校を見学する機会も得られ、感激は深まるばかりだった。

さて、フロストパレィに着任してから今日まで、パートナーシップの少年育成の一助となれば、パートナーシップとの今後の良い交わりを期待を膨らませている。

(在フロストパレィ 三浦壮一郎)

